

北大江地区は、上町台地の北の端で、大川に接するところです。

古事記や日本書紀に仁徳天皇が開削したと書かれている難波の堀江はこの付近の大川のことだといわれています。

上町台地の北の端には難波宮が築かれたましたが、その港であった難波津がこの付近ではないかと考えられており、奈良時代の遺構等の出土する上町台地の上のほうに役所などの施設、下のほうに港の施設があったと考えられています。

行基が堀江の橋を造ったと伝えられているそうですが、この付近のことかどうかは不明です。

古事記・・・「又堀難波之堀江而通海」

日本書紀・・・「掘宮北之郊原 引南水以入西海 因以號其水曰堀江」

万葉集・・・「葦刈りに堀江漕ぐなる楫の音は大宮人の皆聞くまでに」「難波津を漕ぎ出て見れば神さぶる生駒高嶺に雲ぞたなびく」「やすみししわが大君のあり通ふ難波の宮はいさなとり海片附きて玉拾ふ浜辺を近み朝羽振る波の音さわき夕なぎに櫂の声聞ゆ」 ほか